



〈公開〉 生と死の物語

□会場 東洋英和女学院大学大学院  
(六本木) 201教室  
東京都港区六本木5-14-40

□最寄駅 六本木駅(日比谷線徒歩10分)  
麻布十番駅(大江戸線徒歩5分、南北線徒歩7分)  
□先着 100名様

□参加費 各回500円  
本学院在校生・教職員無料  
□事前申込み 不要

第9回連続講座

2月17日(土)  
14:40-16:10(受付14:10~)

■プロフィール

東北大学大学院教育学研究科博士課程修了 博士(教育学) 非常勤講師として、慶應義塾大学、東京学芸大学、東京首都大学等で教育学、教育哲学等の授業を担当。教員養成系の教員を経て2016年度より現職。学部では教職に関する科目も担当。

■主要業績

教育思想史学会編『教育思想事典』勁草書房、2017。羽野ゆつこ・倉盛美穂子・梶井芳明編『あなたと創る教育心理学』ナカニシヤ出版、2017。井藤元編『ワークで学ぶ道徳教育』ナカニシヤ出版、2016。下司晶編著『「甘え」と「自律」の教育学』世織書房2015。

尾崎博美

(おざき ひろみ) 本学人間科学部准教授

命の価値は「教え」られるか?  
一生と死を「学ぶ」授業実践を通して

内容紹介:

子どもたちはどのようにして「生」と「死」を学ぶのでしょうか。また、子どもたちに「命」について「教える」とはどのようなことを意味するのでしょうか。そもそも、人間の「生」や「死」を「教える」ということは可能なのでしょうか。時代の移り変わりの中で、「生」「死」「命」に関する人間の「教える-学ぶ」の捉え方や実践は大きく変わります。現代の子どもたちが、命の価値を身につける上でどのような課題があるのか、またそうした中で社会や大人は子どもたちに何を伝える必要があるのか、学校での授業実践を事例に、教育哲学の視点から考えてみたいと思います。

第10回連続講座

2月17日(土)  
16:20-17:50

■プロフィール

上智大学大学院文学研究科教育学専攻博士課程単位取得満期退学。本学准教授を経て2010年より現職。臨床心理士。専門は心理臨床におけるイメージ技法。主に心理療法におけるイメージの展開とその治療的意義について探ることをテーマとする。

■主要業績

「統合失調症への塗り絵を用いた心理療法」『箱庭療法学研究』第2号1号、2009。「金子みすゞの作品と生涯にみる生と死-分析心理学の視点から-」『死生学年報2011』リトン、2011。「石川啄木-短歌にみる生と死の表現」『死生学年報2017』リトン、2017。

福田 周

(ふくだ あまね) 本学人間科学部教授

高村光太郎

一智恵子抄 心の病に寄り添うということ

内容紹介:

高村光太郎は明治生まれの日本を代表する彫刻家です。彼は彫刻だけではなく、画家として、また随筆家としてもその才能を発揮しています。しかし、彼をより有名にしたのは詩集の『道程』や『智恵子抄』でしょう。そのうち『智恵子抄』は心の病に罹り亡くなった妻である智恵子への想いを詩にしたものです。この講座では、心の病をもつ妻に、夫の光太郎がどのように寄り添って生きてのかを考えていこうと思います。

東洋英和女学院大学 死生学研究所編(リトン刊)

『死生学年報2017 死から生への眼差し』

定価2,500円+税 ※一般書店でご注文・ご購入いただけます



お問合せ先

東洋英和女学院大学死生学研究所  
shiseigaku@toyoeiwa.ac.jp  
03-3583-4035 (fax専用)